

小松尚
さん

名古屋大学大学院准教授

津市長
前葉泰幸

マイナス×マイナスでプラスに

平成29年2月17日、津市公共施設等総合管理計画策定・推進アドバイザーをお務めくださっている小松尚・名古屋大学大学院准教授をお迎えし、津市の公共施設等総合管理計画の内容や事業の推進について前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影/津市教育委員会庁舎

市長 小松先生は建築計画や地域計画、まちづくりなどがご専門でいらっしゃいます。まずは先生のご研究やご活動の内容をお聞かせくださいませんか。

小松 各地の老朽化した小・中学校の建て替え計画に携わっています。学校施設が多機能であることを生かして、さまざまな活動ができる地域拠点という形で整理しようと考えています。

公共図書館については、建築計画や運営手法を研究しています。最近は、高齢者や、若者、子育て世代の居場所として使われることも多く、そういう今日的なニーズをどう取り込むのか国内外の事例を調査しながら研究を進めています。

市長 さて、津市公共施設等総合管理計画は、174ページの分厚いものになりましたが、この計画についてどうお感じですか。

小松 基本的な考え方は全庁横断的に見ていく方針となっていますが、具体策では、まだ少し行政の縦割りが残っているように感じます。

公共施設マネジメントは、計画を作ることが目的ではなく、市民の皆さんに「良くなった」という実感があって初めて成功と言えます。つ

まり、財政的にどれだけうまくいっても「不便になった」とか「サービス水準が落ちた」では駄目なのです。市民の皆さんの反応はどうですか。

市長 こういう計画自体の必要性はご理解をいただいていると考えています。昨年、計画策定と並行する形で市政アンケートを実施しましたがまず、「老朽化した施設は今後どうしていけばいいですか」という質問に対しては、3つの意見に分かれました。「他の行政サービスを削減してでも更新費用の財源を賄うべき」あるいは「税率を上げてもいい」という意見が約3割。一方で、そういう施設は「民間や地域に譲渡・売却する」とか「もう更新しなくていい」という意見も約3割。「施設を統廃合し施設数を減らす」が約4割となりました。

小松 4割近くが統廃合の必要性を認識していることは、一つの方向性として大事にすべきだと思います。

市長 次に、「今後も利用が見込まれる施設についてはどうしていけばいいですか」という質問ですが、「市職員や財源を投入すべき」という意見が約2割。一方で、「民間、地域に譲渡す